

(様式 3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 令和 7 年度第 1 回事業モニター報告書

事業名 水源の森林づくり事業の推進

報告責任者 太幡 慶治

実施年月日 令和 7 年 7 月 31 日 (木)

実施場所 長竹水源林 (相模原市緑区)

評価メンバー 倉橋 満知子、増田 清美、牛島 則子、田島 聖一郎、
太幡 慶治、三好 秀幸、池田 宜弘、齋藤 海、古舘 信生
乙黒 理絵、日向 治子

説明者 神奈川県水源環境保全課
神奈川県県央地域県政総合センター水源の森林整備課

モニターのテーマ

水源の森林づくり事業の推進にかかる実施状況等をモニターする。

事業の概要

・ねらい

水源かん養など森林の持つ公益的機能の向上を図り、良質な水を安定的に確保するため、「水源の森林エリア」内の私有林の公的管理・支援を推進する。

・内容

水源の森林エリア内の森林約 60,900ha の森林を対象にして、その中の私有林約 42,000ha のうち、手入れの必要な私有林 25,800ha を確保し、令和 8 年度までに延べ 54,000ha を整備する。

・実績

【水源林の確保実績】

平成 9 年度から令和 6 年度までの 28 ヶ年の水源林の確保森林は、計画 25,800ha に対し、実績 22,955ha で、89% の進捗率となっている。

	税導入前 (H9~H18)	水源環境保全・再生実行 5 か年計画			H9~R8 30 年間
		1・2 期 (H19~H28)	3 期 (H29~R3)	4 期 (R4~R6)	
計画	—	11,755ha	2,700ha	3,400ha	25,800ha
実績 (R6 まで)	8,530ha	11,662ha	2,895ha	1,260ha	※22,955ha
進捗率	—	99.2%	107.2%	37.1%	89%

(※協力協約から長期施業受委託への移行分を反映した実面積)

【水源林の整備実績】

平成9年度から令和6年度までの28カ年の水源林の整備森林は、計画54,000haに対し、実績56,678haで、105%の進捗率となっている。

	税導入前 (H9~H18)	水源環境保全・再生実行5か年計画			H9~R8 30年間
		1・2期 (H19~H28)	3期 (H29~R3)	4期 (R4~R6)	
計画	—	20,659ha	13,400ha	14,500ha	54,000ha
実績 (R6まで)	7,560ha	21,853ha	16,435ha	10,831ha	56,678ha
進捗率	—	105.8%	122.6%	75%	<u>105%</u>

評価結果	評価点
<p>共通項目</p> <p>① ねらいは明確か</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」で謳われている一番川上の事業である本事業の狙いは、水源かん養など森林の持つ公益的機能の向上を図り、良質な水を安定的に確保するための森林の公的管理、支援であることは明確である。 ○ 水源地域の森林を緑のダムにするために、水源の森林エリアの私有林の公的管理・支援を推進するという事業の目的は、明確だと思う。 <p>② 実施方法は適切か</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 強度の間伐率のように思われるが現場を見る限り、光の入りや樹幹の間隔、土壌流失防止の丸太柵工の方法が適切に行われたと思う。 ○ 整備前の調査、所有者との交渉から、水源林としての目標林型を目指した整備まで、段階ごとにそれぞれ適切に行われていると思う。 <p>③ 効果は上がったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水源林の確保実績の計画 25,800ha に対して、整備実績 89%の進捗率は効果が上がっていると思える。 ○ 事業が始まる前の宮ヶ瀬湖の渇水期である 8 月の水質データ BOD を比較すると、平成 17 年 0.8、平成 19 年 1.4 と水質が悪化してきた事がわかる。それが平成 27 年には 0.8、令和 4 年では 0.4 と改善してきている。かつて水質の悪化と水量の確保が課題であった宮ヶ瀬湖だが、事業によりわずかながら改善してきているのがわかる。宮ヶ瀬湖周辺の長竹地区の間伐事業は水質改善、水量確保に取り組みは“効果があった”と評価できる。 <p>④ 税金は有効に使われたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有効に使われている。大綱終了後も、継続した公的な支援が必要である。 ○ 概ね有効的に使われている。径路新設工が多くあるが、それほど入れる理由や事業費の効果が高いのか疑問である。 	<p>5 点（9 名） 4 点（2 名）</p> <p>5 点（6 名） 4 点（4 名） 3 点（1 名）</p> <p>5 点（3 名） 4 点（7 名） 3 点（1 名）</p> <p>5 点（6 名） 4 点（4 名） 3 点（1 名）</p>

<p>個別項目</p> <p>【水源の森づくり】</p> <p>○ 今回は水源環境税の発足から整備を始めて約 20 年の経過を見られる事例だった。20 年前の荒れた森が再生の一步としてこれからは見ることが出来る。成果が問われるのはこれからである。また、この先、地主さんの関りも関係してくるが、異常気象を初めとして予想を超える災害からどう乗り越えられることを期待したい。</p> <p>【森林整備】</p> <p>○ 水源林としての森林整備は無駄なく、的確に行われていると思う。また、所有者返還後に「手入れしなくても維持できる」というところまでを設定して整備を行っているところは、すばらしいと思った。ただ、現状でも下層植生はやや単一的であり、今後広葉樹がどのように育つのか疑問も感じた。</p> <p>【確保事業】</p> <p>○ 確保計画 100%達成は難しいということだった。その原因として地形や所有者の問題があげられた。特に所有者の問題は相続など所有者特定が容易でないということと、小面積でもかかる手間が変わらないという問題があった。今回見学した林のような大面積や林道付近の林は所有者や森林組合に働きかけ公的支援を行い、小面積や難しい地形こそ公的管理が求められるのではないかと感じた。それには所有者や森林組合が意欲と能力をもって事業に取り組む必要があり、県にはそのサポートを引き続き期待する。</p> <p>【荒廃森林対策と材の活用のバランス】</p> <p>○ 所有者が複雑に入り込む私有林の手入れ方法は、現時点では間伐した木を林に残し、土壌の流出防止や、下層植生の充実には一定の有効な実績は上がっていると思われる。</p> <p>しかし、所有者に管理を返した後のフォローアップを、この時点で考えないと、荒廃はすぐに戻ってしまうことにもなりかねないと思う。</p> <p>今後は、所有者少しでも材を活用出来るようなシステムの構築は必要と考える。</p>	<p>5点（3名） 4点（6名） 3点（2名） 重複あり</p>
<p>総合評価</p> <p>○ 本事業は、「水源環境保全・再生の取組」の中核事業であり、目的や計画も明確である。進捗状況は、確保に関しては、小規模な森林や権利関係が不明な森林があり、課題があるが、整備に関しては、計画以上進行しており、評価できる。</p> <p>○ 視察させていただいた現場（長竹水源協定林）は、三回目の整備が終了し、約 500 本/h a になったとのことで、森が明るく、森林整備された水源林になったと感じた。ただ、当協定林は、令和 9 年度に返還となる予定で、その後は、所有者自らが整備する必要がある、今の良い状態を保持するためには、何らかの公的な支援が必要と考える。</p>	<p>5点（3名） 4点（8名）</p>

- 施工の目標に対して正確に設計している。森林内の安定性も高く、最後の施工後には目標林型の形を成していたのは素晴らしいと感じた。しかし、工種が多くなることで事業費が高い印象が残った。効果はあるけれど、それほどの費用対効果があったのか、そこが多少なり疑問である。それでも、集約化により広い面積での森林整備が出来ていることは合理的であり、金銭的な面や地形や植生等の面でもより高い効果を発揮できている。

- 今回モニターした長竹水源協定林は契約者が 19 人もいる協定林で、各所有者に県職員が趣旨を説明し協定林契約を行い平成 20 年から整備を行っている典型的な「水源の森林づくり事業」となっていて、県のご苦勞を如実に示す事業であった。
その上、平成 20 年当時の整備前の写真も整っていて、3 回の間伐により森林密度も減少し地面が明るくなり、下層植生が回復し、小さな広葉樹も育って来ていた。まさに水源環境保全・再生が進んで、水源かん養施策の成果が体得することが出来る現場であった。

- 事業モニターを通して、下層植生面積の着実な拡大が事業により確保されていることが確認できた。その効果を妨げる存在がシカの食害であることも確認できた。間伐域と管理捕獲域で連携した動きを作り出した方が、効果的ではないかと感じた。

現場視察の様子



▲現場視察（長竹水源林）

▼現場視察（長竹水源林）



▲現場視察（意見交換の様子）

令和7年度第1回事業モニター評価一覧
(水源の森林づくり事業の推進)

1 共通項目

「事業のねらいは明確か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
倉橋	水源涵養の安定的確保や森林の公的機能を図るための森林整備は明確。	5
増田	良質な水を安定的に確保するという目的は明確である。	4
牛島	水の安定的確保のために、相模川、酒匂川上流、ダム周辺地域を水源エリアとし、森林を健全な姿に整備することは必須であり、事業の狙いは明確である。	5
田島	明確である。	5
太幡	水源涵養など森林が持つ公益的機能の向上、良質な水、安定的確保、3つのねらいがある。暗い間伐されていない森林から明るい下草が生える森林への変化は、天水の受け口である水源涵養機能につながり、下流の宮ヶ瀬湖の水質と水量に現れる。これを狙った事業の目的は適切かつ明確である。	5
三好	明確である。 水源の森林づくり事業は、「水源環境保全・再生の取組」の中核の事業であり、そのねらいは、明確である。	5
池田	間伐をして下層植生の回復を促し、土砂移動防止のため土壌保全工を行うなど、水源涵養機能向上のための措置がなされており事業の狙いは達成されていたと感じた。	5
齋藤	明確であった。	5
古舘	「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」で謳われている一番川上の事業である本事業の狙いは、水源かん養など森林の持つ公益的機能の向上を図り、良質な水を安定的に確保するための森林の公的管理、支援であることは明確である。	5
乙黒	水源地域の森林を緑のダムにするために、水源の森林エリアの私有林の公的管理・支援を推進するという事業の目的は、明確だと思う。	5
日向	手入れの入りにくい私有林についての公的管理という点では目的が明確であると考えます。 今後は森林を所有者に返した後の課題についてもフォローアップしていくようにしてほしい。	4

「実施方法は適切か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
倉橋	強度の間伐率のように思われるが現場を見る限り、光の入りや樹幹の間隔、土壌流失防止の丸太柵工の方法が適切に行われたと思います。	5
増田	適切に行われていると思える。	4
牛島	整備前の調査、所有者との交渉から、水源林としての目標林型を目指した整備まで、段階ごとにそれぞれ適切に行われていると思う。	5
田島	適切である。	5
太幡	森林が持つ水源涵養機能を最大限引き出す有効な手段として間伐は有効であることは周知の事実である。事業により“天水の受け口”である下層植生を創出した現場を確認して実施方法が適切であった事を確認した。	5
三好	適切である。 水源林の確保の手法は、水源協定林が中心となっているが、契約満了に伴い所有者に返還した森林が、今後も継続的に適切な管理が行われるか等、課題がある。	4
池田	伐採された木は立木や切株にかけられ、きれいに整理されていた。	5
齋藤	概ね適切である。 複数の所有者の森林を集約化しての施工は合理的で非常に良い。しかし、施工内容で今回までの整備で枝打ち工を2回行っているが必要性があったか疑問である。	3
古舘	水源林エリアの私有林を森林所有者の理解を得て水源協定林などの方法で確保し、間伐整備して太陽光を地面に導き下層植生を促し目標林型に誘導する方法は、良く練られている。また、土砂崩れなどを補修する土壌保全工も適切に実施されている。しかし、種々の理由により整備事業から外れた森林が隣接している箇所も見受けられ、この施策に限界がある点で、完璧とは言えない。	4
乙黒	針広混林整備の施業手順に則り、確実に丁寧に森林整備がされた現場だった。実施方法は適切だといえる。	5
日向	多くの所有者のいる中では、現状は良しとするところと思う。 今後はもう1歩先を見据えた間伐を進められればと思う。	4

「効果は上がったか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
倉橋	見学地は三回の整備を終え、地主さんに渡す状況を見ると、整備としての効果は充分にあると思います。	4
増田	水源林の確保実績の計画 25,800ha に対して、整備実績 89%の進捗率は効果が上がっていると思える。	4
牛島	間伐を行った結果、林内の照度が上がり、下草が生えている状態を確認し、混合林としての成長を予見できた。また、間伐材を土留めに使用することで、土壌流出を防止するなど、効果は上がっている。	4
田島	上がっている。	5
太幡	事業が始まる前の宮ヶ瀬湖の濁水期である 8 月の水質データ BOD を比較すると、平成 17 年 0.8、平成 19 年 1.4 と水質が悪化してきた事がわかる。それが平成 27 年には 0.8、令和 4 年では 0.4 と改善してきている。かつて水質の悪化と水量の確保が課題であった宮ヶ瀬湖だが、事業によりわずかながら改善してきているのがわかる。宮ヶ瀬湖周辺の長竹地区の間伐事業は水質改善、水量確保に取り組みは“効果があった”と評価できる。	5
三好	上がっている。 間伐等の効果で明るくなった森が増加している。モニタリング調査やレーダー調査等の面的な調査を継続し、効果の検証を行っていただきたい。	4
池田	水源涵養機能がどれほど向上しているかということは正直よくわからない。切捨て間伐後の整理された丸太は土留めの役割を果たすかもしれないが、その下から下層植生は生えてこない。数値化できれば説得力が増す。	3
齋藤	効果は上がっている。 施工後の森林内では複数の樹木が成長しており、森林自体の機能が高まっていると見受けられる。	4
古舘	今回モニターした長竹水源協定林は、施業前には下層植生が見られなかった所が 2 回、3 回の間伐で下層植生の回復が進んでいることを確認した。その意味で効果は上がっていると言える。しかし、鹿の食性の影響で、下層植物が食べられている所も他所ではあり、苦労しているようだ。	4
乙黒	3 段階に整備が実施された写真、現場を見せていただき、上をみると光が入る明るい森になり、下をみると土壌保全をされており、効果が上がっていると感じた。	5
日向	一定数の効果は上がっていると思う。 ただ、森林整備は長期的かつ継続的に積み上げた効果を見ていかなければならない点を確認してほしい。	4

「税金は有効に使われたか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
倉橋	有効と考えます。	4
増田	有効に使われていると思える。	4
牛島	有効に使われている。	5
田島	使われている。	5
太幡	水道水の源が水源林であり、天水の受け口が“下層植生“である。下層植生の量を増やしていく事が水道水の水質改善と貯水量の確保につながる。水質、貯水量改善に事業はつながるのであるから、事業に投じた税金は有効に使われた判断して良いと思う。	5
三好	有効に使われている。 大綱終了後も、継続した公的な支援が必要である。	5
池田	径路新設工が毎回行われているが、補修で対応できた箇所もあったかもしれない。また、搬出しないのであれば枝打ちせず間伐率をあげることで林内への光が増えるし、次の間伐にかかる費用も圧縮できたかもしれない。	3
齋藤	概ね有効的に使われている。 径路新設工が多くあるが、それほど入れる理由や事業費の効果が高いのか疑問である。	4
古舘	水源林の確保状況、整備状況とも計画通りに進んでいる。長竹水源協定林では事業費も適切かつ有効に使われていると思われた。	5
乙黒	税金は有効に使われたと感じた。	5
日向	有効であったと考えられる。	4

2 個別項目（任意）

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
倉橋	水源の森づくり	今回は水源環境税の発足から整備を始めて約 20 年の経過を見られる事例でした。20 年前の荒れた森が再生の一步としてこれからは見ることができます。成果が問われるのはこれからです。また、この先、地主さんの関りも関係してきますが、異常気象を初めとして予想を超える災害からどう乗り越えられることを期待したいです。	4
牛島	森林整備	水源林としての森林整備は無駄なく、的確に行われていると思います。また、所有者返還後に「手入れしなくても維持できる」というところまでを設定して整備を行っているところは、すばらしいと思いました。 ただ、現状でも下層植生はやや単一的であり、今後広葉樹がどのように育つのか疑問も感じました。	4
田島	森林整備	目標林型「針広混交林・広葉樹林」達成にむけて、一部斜面がきつかったり運び出しが大変そうな場所もあったが伐倒したままの状態ではなく径路の留め材にも使われていたりして適切に整備されている。下層植生も確実に増えている。 また適度な照度や風通しも確保されているので害獣対策もできていると思われた。	5
太幡	シカ	山蛭が多く生息している様子が確認できた。また、シカの好む下層植生種は少なく、嫌うものが多かったのがそれが裏付けられた。標高が高い山域の捕獲圧が功を奏して、シカが下がってきているという自然公園指導員情報を裏付けている。 標高の高い山域のブナやその下層植生は良好な湧水につながる天水の受け口である。高山域のシカの管理捕獲を進め、引き続き丹沢山域が受容できる適正な頭数に抑えていく必要があると感じた。	4
	水質処理	長竹水源協定林の整備開始後の平成 19 年の前後の宮ヶ瀬湖（平成 12 年開始）の BOD 値の変化を見ると森林整備と水量水質が時間をおいて現れる関係性が読み取れる。森林整備で立ち木本数を減らして陽光を下層植生に導く取り組みは、効率よく下草を増やす基盤づくりの土壌保全工（丸太筋工）で斜面に作り出した棚田状の平地の上に生えた下草の量で良く分かった。現採丸太筋工の斜面の経年変化で朽ちても下草を保持した安定的な斜面として定着していく様子も今回の事業視察で確認できた。この様な下草（下層植生）を確保する事業は、宮ヶ瀬湖の水質データ推移と照合すると関係性が見える。だから、水源林の水質処理力を高める事業に当たるものと位置付けてよいのではないかと感じた。	5

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
三好	土壌保全対策	近年、大雨等の自然災害等も多くなり、土壌流出対策を含めた森林の整備の重要性が高まっている。そこで、土壌保全対策を主眼とした森林整備の考え方も重要と考える。	4
池田	確保事業	確保計画 100%達成は難しいということだった。その原因として地形や所有者の問題があげられた。特に所有者の問題は相続など所有者特定が容易でないということと、小面積でもかかる手間が変わらないという問題があった。今回見学した林のような大面積や林道付近の林は所有者や森林組合に働きかけ公的支援を行い、小面積や難しい地形こそ公的管理が求められるのではないかと感じた。それには所有者や森林組合が意欲と能力をもって事業に取り組む必要があり、県にはそのサポートを引き続き期待する。	4
齋藤	森林整備	間伐、丸太筋工、植生保護柵などによる多面的な作業を行っており、森林内の安定性が高くなる良い施工計画であった。ただ、工種が多くより良くしようとしていると見受けられるが、径路新設、枝打ち工が多い印象を受けた。それによる費用対効果があったのか少し疑問がある。	4
古舘	目標林型	長竹水源協定林の目標林型は「針広混交林」と「広葉樹林」である。整備前の高密度な森林を間伐して森林内の照度が増えることにより、下層植生が回復しいずれ大きな樹木となる広葉樹が成長してきて「針広混交林」になるというが、整備開始から3回目の高強度の間伐を行なった20年間の間に、その目標林型は形成されているようには見えない。 一方で、「健全な人工林」という目標林型があるが、これは間伐した木材を搬出し、下層植生が豊かな森林となることを期待するが、この下層植生の中から広葉樹の実生が育ち針広混交林になるはずである。 また、「広葉樹林」は地滑りや土砂崩れによって崩れた地形を土壌保全することによってそこに下層植生が回復しいずれ広葉樹の実生が発生し広葉樹林になることを期待するような説明であった。 この辺の定義がはっきりせず、目標林型の境界が分かりにくく便宜的であるように見える。	3

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
乙黒	水源林の確保実績と整備実績の進捗ペースについて	<p>水源林の確保実績と水源林の整備実績を1年毎の平均で見ると、確保は最初の1, 2期の実行ペースが早く徐々にペースが遅くなっているのに対し、整備実績は4期に進むにつれて倍速し、整備面積はすでにR8年の目標を達成している。このことから、私有林の公的管理・支援は順調だと思う。すでに目標を達成されているように思う。確保の面で計画を達成することは大切だとは思いますが、54000ヘクタールを整備することを目標にそのために必要な確保が25800ヘクタールという目標設定だったのだろうか。もし大目標が整備なのならば、十分目標達成されているのではないだろうか。</p> <p>確保計画を100%達成しないといけないのだろうか。</p> <p>残り2年の確保の取組についてもう少し伺いたかった。</p>	5
日向	荒廃森林対策と材の活用のバランス	<p>所有者が複雑に入り込む私有林の手入れ方法は、現時点では間伐した木を林に残し、土壌の流出防止や、下層植生の充実には一定の有効な実績は上がっていると思われる。</p> <p>しかし、所有者に管理を返した後のフォローアップを、この時点で考えないと、荒廃はすぐに戻ってしまうことにもなりかねないと思う。</p> <p>今後は、所有者少しでも材を活用出来るようなシステムの構築は必要と考える。</p>	3

3 総合評価

評価者	評価	評価点
倉橋	<p>水源環境税の導入がいよいよ最後の段階となりました。多くの水源涵養として森林の間伐を中心に整備が進められてきました。森づくりの20年は短いものですね。手入れしたこれらの森林は、本来でしたらもっとりっぱな大木になっている訳です。どこまで成果として答えてくれるのか見てみたい気持ちでいっぱいですが、叶わないのが残念なところですね。</p> <p>20年前を振り返ると、荒れた森林ばかりが目につき、雪が降れば折れて無残な姿をさらけ出して痛々しいばかりでした。今は充分とは言えませんが気持ちのいい森の姿を見ることが出来るようになりました。持続可能な手入れが引き続きできるよう期待します。</p>	4
増田	<p>事業の目的、事業の計画、目標とする森林の姿等々に照らし合わせて現場を見た限りでは、計画通りに進んでいると思われた。</p>	4
牛島	<p>水源林整備について、とてもわかりやすく説明していただき、理解できたと思います。</p> <p>たとえば、水源林特有の整備方法（良質な木材の育成ではなくて、林内照度をあげることを優先した間伐）、間伐材を搬出せず土壌流出防止に利用することなど、認識を新たにしました。</p>	4
田島	<ul style="list-style-type: none"> ・整備履歴は5年ごとのようだが、健全な森林になっていると思われま す。見学したのは入口の一部だけだったので、奥の経路整備場所や丸太 筋工の施工現場も確認したかった。 ・資料の写真が前中後と時系列になっており、また樹木密度（haあたり 何本）も明記されていてとても見やすい。 ・枝打ちが幹上層部までしっかりされていて、材としての価値もあるよ うに見えた。 	5

評価者	評価	評価点
太幡	<p>足を踏み入れたのは長竹地区の水源協定林の整備作業の一部だけだが、蓄積された間伐前後の人工衛星画像と照合してみたところ、間伐と下層植生の関連があることが画像の比較で見えた。現地で伐採した間伐材を用いて斜面に土留めと広葉樹の苗床となる棚面を作り出す現採丸太筋工は針広混交林作りにつながっている様子が、下草に混じり生えていた広葉樹の幼木を確認してわかった。下草の種類を見るとシカの好むものが小さく、好まないものが大きくなっている様子から食害の圧を受けていると推定される。また、忌避剤をわざと塗らなかつた長靴の前面に大きく育ったヤマビルが這い上がってきた様子からシカの密度の高さを感じられた。シカは見えなくても育ったヤマビルの多さを見れば、シカが多く生息しているのがわかる。水源涵養機能を果たす水源林面積を確保するためには、作り出した棚面に広葉樹幼木が無事に育つ必要がある。整備作業と並行してシカ管理捕獲を推進して、棚面に広葉樹幼木が順調に成長していく適正な頭数まで減らす必要を感じた。事業の行われる前と事業後の水源林環境の比較と流入する湧水の流れ込む宮ヶ瀬湖の水質を見た時に BOD 値の値は良くなってきているので、事業の有効性を認める。事業モニターを通して、下層植生面積の着実な拡大が事業により確保されていることが確認できた。その効果を妨げる存在がシカの食害であることも確認できた。間伐域と管理捕獲域で連携した動きを作り出した方が、効果的ではないかと感じた。</p>	5
三好	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、「水源環境保全・再生の取組」の中核事業であり、目的や計画も明確である。進捗状況は、確保に関しては、小規模な森林や権利関係が不明な森林があり、課題があるが、整備に関しては、計画以上進行しており、評価できる。 ・視察させていただいた現場（長竹水源協定林）は、三回目の整備が終了し、約 500 本/ha になったとのこと、森が明るく、森林整備された水源林になったと感じた。ただ、当協定林は、令和 9 年度に返還となる予定で、その後は、所有者自らが整備する必要があり、今の良い状態を保持するためには、何らかの公的な支援が必要と考える。 <p>今後増加する返還時期を迎えた協定林に関して、良好な水源林としての機能を保持するために、何らかの公的な支援か公的管理への移行等、検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、大雨等の自然災害等も多くなり、土壌流出対策を含めた森林の整備の重要性が高まっている。土壌保全対策を主眼とした森林整備の考え方も重要と考える。 ・本事業は、「水源環境保全・再生の取組」の中核事業であり、多くの費用が必要であり、県民の理解が重要である。そこで、事業の状況を、インターネットを通して、動画やアニメ等で整備前後の写真を示すなど、県民にわかりやすく発信してはどうか。特に将来を担う小学生や中学生向けの継続した取組が必要と考える。 	4

評価者	評価	評価点
池田	<p>説明資料の過去の写真と現地の見学により3回の間伐で林内に光が入り、下層植生が回復していたことを確認できた。土砂流出も対策されていた。どれほど水源涵養機能が維持向上しているか具体的にはよくわからないが、現在の林のほう人居心地がよく気持ちが良いと思う。実際に現地を訪れるとそれだけでも価値があることだと思える。水源涵養機能を数値化することができたらより説得力が増すと思う。</p> <p>「税金は有効に使われたか」にも記載したが、施業内容について予算等さまざまな条件から決められていると思うが、引き続き細かく精査しながら税金が有効に使われることを期待する。内容の精査は重要だが、必要な対価を支払うことも重要だと思う。実際の作業はとても危険を伴うものでありながら、林業従事者の給与平均は全産業の平均給与より安い。十分な対価が支払われ林業従事者の地位が向上することも事業の推進に重要なことだと思う。</p>	4
齋藤	<p>施工の目標に対して正確に設計している。森林内の安定性も高く、最後の施工後には目標林型の形を成していたのは素晴らしいと感じた。しかし、工種が多くなることで事業費が高い印象が残った。効果はあるけれど、それほどの費用対効果があったのか、そこが多少なり疑問である。それでも、集約化により広い面積での森林整備が出来ていることは合理的であり、金銭的な面や地形や植生等の面でもより高い効果を発揮できている。</p>	4
古舘	<p>今回モニターした長竹水源協定林は契約者が19人もいる協定林で、各所有者に県職員が趣旨を説明し協定林契約を行い平成20年から整備を行っている典型的な「水源の森林づくり事業」となっていて、県のご苦労を如実に示す事業であった。</p> <p>その上、平成20年当時の整備前の写真も整っていて、3回の間伐により森林密度も減少し地面が明るくなり、下層植生が回復し、小さな広葉樹も育って来ていた。まさに水源環境保全・再生が進んで、水源かん養施策の成果が体得することが出来る現場であった。</p> <p>昨年度の施策懇談会で、事業モニターに際してテーマにストーリー性を持たせることが重要であるとの指摘があったが、今回の事業モニターでは県側（事業全体的な資料、モニター現場での説明）に工夫が凝らされていて、初めての委員にとっても全体の動きが分かるように配慮されていた。また、質問に対しても丁寧に答えていて好感が持てた。</p> <p>一方で間伐を行い太陽光が地面に届くようになっても、場所によって下層植生がうまく進んでいないところもあるようで、シカの食害やその他の要因によりうまくいっていないケースがあるようで、その辺の話ももう少し聞ければ良かったと思う。</p>	4

評価者	評価	評価点
乙黒	<p>確保事業の手順、確保手法別に目標とする林型が異なることを座学で学んだ。どのように確保されたかによって、目標とする林型が決まることで、一つの山のなかで異なる手入れをされた異なる型の林になるのには驚いたが、よく考えると同じ山で異なる林型があることで、将来その山や気候に適した林型を見つける機会にもなるのかもしれないと思った。</p> <p>整備方法について、木ごと倒れてしまった小規模な崩壊地に丸太筋工を施工した土壌保全工の話や、下層植生が豊かな森林を目指す、整備作業者の安全性を担保するため、仮払いは最小限という話をきき、安全性を最優先して、手引きを遵守し現場で最適解を出しながら整備事業を進めていることは、評価すべき事だとおもう。急傾斜で、ヤマヒルがいたり、湿気が多い環境の中、安全性を大切に整備をされていることを知り、今後も安全第一で進めていただきたいと心から思った。</p>	5
日向	<p>水源環境保全事業の20年を考えると、確実に目に見える効果は見えてきていると思う。階段を一段二段上ったと思う。</p> <p>20年の事業終了後、事業の継続は決まっているようであるが、さらに安定ある効果を持続出来るようなシステム作りをしていかななくてはならないと考える。</p>	4